

ショートコメント vol.55 (2016年6月17日)

テーマ：マイナス金利導入後の預金動向

～企業と個人でトレンドが乖離。大阪の個人預金は減少が続く～

●2か月前のショートコメント

2か月前のショートコメント『大阪では個人預金が前年比で減少』で、企業や個人の預金動向について次のような指摘を行った。

マイナス金利の導入をきっかけに預金残高の増勢が強まっているものの、全体を押し上げているのは主に金融機関による預金であり、個人預金の増加幅は縮小していること。特に、大阪の個人預金は前年比でマイナスに陥っている——という内容である。

これらが一時的な動きの可能性もあることから、その後の推移に注目してきたが、約2か月が経った今も傾向に変化はみられず、むしろ強まっている感がある。

●金融機関や企業による預金は増加

まず、預金残高の動きをみると、前年比での増加率は拡大が続いている(図表1)。直近の4月は6.0%増と大きく伸びており、2月のマイナス金利導入以降、増勢が強まっている様子が分かる。

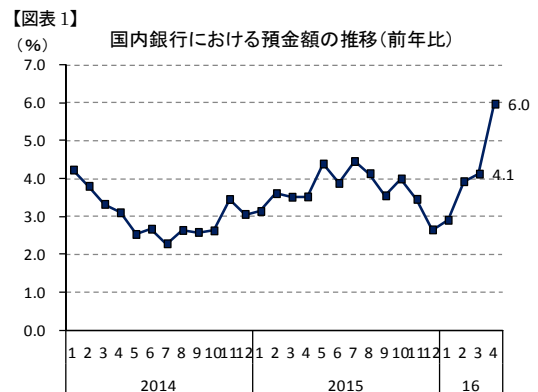
この動きについて、預金種類別の寄与度をみると、こちらも特徴的な動きが続いている。全体の増勢を支えているのは、主に「金融機関による預金」と「(個人預金を除く)一般預金」であり、この両者の動きによって、預金残高の増加の大半が説明できる(図表2)。この背景としては、めぼしい投資対象がなかなか見当たらない中、結果的に金融機関に預金が積み上がっている可能性も考えられよう。

●個人預金の増勢は引き続き鈍化

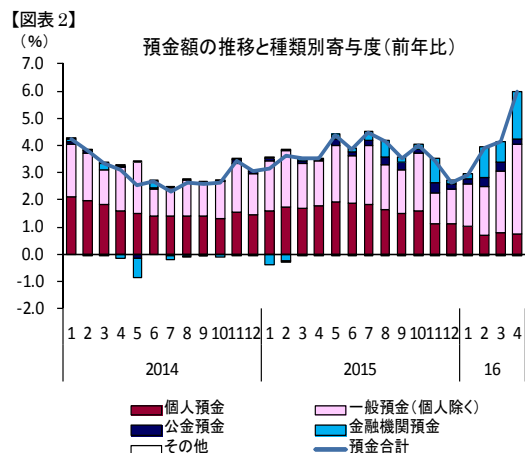
その一方、個人預金については増加幅の縮小がみられるが、これを主な府県ごとにみたものが図表3である。

全体的に右下がりの動きとなる中、大阪は前年を下回る傾向が続いている。昨年前半の増加率が比較的高かったため、その反動の可能性もあるが、いずれにしても預金が減っている状況は軽視できない。これがもたらす影響について、今後十分な注意が必要となろう。

マイナス金利が個人預金の減少につながっている理由は特定が難しいものの、銀行にお金を置いておくことに



※月末残高の前年比
 ※国内銀行銀行勘定。ただし、整理回収機構、ゆうちょ銀行を除く(出所)日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」



(出所)日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金(国内銀行)」

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

不安を感じ、預金が引き出された可能性も否定できない。

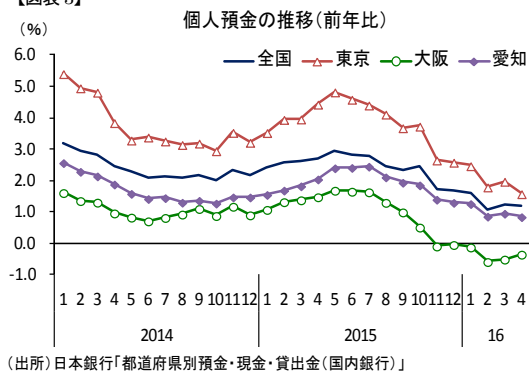
余談ながら、直近の4月で個人預金が前年割れとなっているのは、大阪と和歌山の2県であり、両者がともに関西という点も、非常に気になるところである。

●今後の注目点

今のところ、個人預金のマイナス幅が月ごとに拡大している状況ではなく、比較的小さな規模にとどまっている。残高の推移から判断すると、今年の10月頃までは前年割れが続くとみられるが、問題はその後である。来年以降もマイナスが続くのか、それとも下げ止まるのか。仮にマイナスが続くとすれば、本格的な預金の減少トレンドが始まったことを意味する。

もちろん今年中にマイナス金利の拡大などがあれば、新たな動きが出てくる可能性もあることから、金融政策の動向にも十分な注意が必要となろう。

【図表3】



本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。